

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 17 日現在

機関番号：12608

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520008

研究課題名(和文) 社会的合意形成における情報管理の倫理的価値構造に関する研究

研究課題名(英文) An research in the ethical value structure in the information management in social consensus building

研究代表者

桑子 敏雄 (KUWAKO, Toshio)

東京工業大学・社会理工学研究科・教授

研究者番号：30134422

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：倫理規範と意思決定、社会規範、規範の理念の三要素からなる<倫理的価値構造のトライアングル>において、行為の具体的な場面での「実行可能な正義」と「実現可能な幸福」の概念を得た。そのうえで、人びとの選択の基礎となる情報の欠落と不公平が対立・紛争の解決を困難なものとすることを踏まえ、情報にかかわる「実行可能な正義」と「実現可能な幸福」の概念をもとに「社会的合意形成のプロジェクトマネジメント」を構築し、この考えを理論的・実践的なテキストとしてまとめた。その内容を『社会的合意形成のプロジェクトマネジメント』(コロナ社、2016年)に組み込み、関係機関および社会にアウトリーチとして普及した。

研究成果の概要(英文)：This research placed justice as the key concept that integrates the triangular structure of ethical idea, social system and rule, and individual decision making. This key concept requires us to understand the notion of justice not as a theoretical and abstract notion but as 'practicable justice at the site of individual ethical action.' In this ethical theorizing this research made it clear that the notion of justice of information plays an essential role in the situation of conflict resolution and consensus building. This research also characterizes the concept of realizable happiness as a practical ethical notion, which are sometimes threatened by the lack of practicable justice.

The two concepts play important roles in the management of consensus building. As one of the achievements of this research these concepts were incorporated in two books entitled The Management of Social Consensus Building, Coronasya, 2016, and Projects of Revitalizing our Communities, KADOKAWA, 2016.

研究分野：哲学

キーワード：倫理的価値構造 意思決定 情報管理 マネジメント 正義 幸福 合意形成

研究成果の概要

1. 研究開始当初の背景

現代社会においては、対立する意見を合意へと導く「社会的合意形成」という社会技術の開発研究が求められている。とくに地球環境問題における脱温暖化の地球規模の課題や平成23年3月11日に発生した東日本大震災以降の地域主体の復興・地域づくりにおいても、「社会的合意形成」の実現は避けて通ることのできない喫緊の課題となった。

本研究は、こうした社会的ニーズに応える形で、社会的合意形成を実現するための情報管理に含まれる倫理的価値構造に関する研究を行った。とくに、合意形成推進の主体が配慮すべき倫理的な要素として情報の透明性や説明責任において問われる「公正さ」「公平性」など、情報マネジメントにおける「正義」の問題に焦点を当てた。

2. 研究の目的

本研究は、現代社会の緊急のテーマである「社会的合意形成」に含まれるべき倫理的価値の構造を解明することを目的とした。社会的合意形成プロセスの構築過程では、「透明性の実現」や「説明責任の確保」など、情報管理における「公正さ」や「公平性」といった「正義」に関する倫理的のあり方が問われていた。本研究は、申請者がこれまで蓄積した社会的合意形成に関する理論的研究と具体的な社会実践での経験的知見を統合し、情報管理の倫理について的一般理論の構築とともに、多様な社会基盤整備事業や東日本大震災後の復興事業に応用する際の情報管理の具体的な方法についての応用的研究も含み、その総合的な統合を行うことを目的とした。

3. 研究の方法

(1)「正義」の問題は、哲学・倫理学の領域で広く議論されている。研究代表者の学位論文研究の対象であったアリストテレスの倫理学における正義の概念についても、西洋の思想的伝統のなかで多くの研究が行われてきた。また、現代における正義論でもロールズやサンデルの研究が注目され、多くの研究が展開されている。本研究ではこれらの選考研究について考察を行った。

(2) 研究代表者が十年来取り組んできた社会的合意形成の分野では、情報提供の「透明性」や「説明責任」についての考察が行われている。合意形成分野でスタンダードとなっているのは、アメリカの Consensus Building Institute でのサスカインドラが行っている研究であるが、かれらも合意形成プロセスにおける情報マネジメントの重要性を指摘している。しかし、社会的合意形成推進の現場では、情報管理における「正義」の概念が広く議論されることは少なく、またこの概念に

もとづく合意形成プロセスが実現されているとはいえない。むしろ、合意形成過程で「正義」が実現されるべき課題において、ステークホルダーに情報を知らせない「蚊帳の外」や「寝耳に水」、ステークホルダーによる話し合いに対する「動員」や「やらせ」が行われ、あるいは、「風評」が横行するなど、正義に悖る事態が頻繁に報告されている。

そこで、本研究は、こうした社会的状況を踏まえ、研究代表者がこれまでに蓄積してきた研究と経験をベースに、実践的領域での倫理理論の構築と社会的応用のための方法論の展開を進めた。

(3) 研究代表者は、科学研究費補助金による研究、日本学術振興会人文社会科学振興プロジェクト、環境省地球環境研究総合推進費、JST 社会技術研究開発センター研究開発プログラムによる研究などを推し進めた。以下はその研究題目である。

(1)平成15年度～17年度・科学研究費基盤研究(C)「社会的合意形成における倫理的価値構造の研究」

(2)平成18年度～20年度・科学研究費基盤研究(C)「景観形成における倫理的価値構造の研究」

(3)平成21年度～23年度・科学研究費基盤研究(C)「自然再生への「市民参加」における風土性の倫理的価値構造に関する研究」

(4)平成15年度～19年度・日本学術振興会人文社会科学振興プロジェクト「日本的知的資産の活用」研究プロジェクト・「日本文化の空間学構築」研究プロジェクト

(5)平成19年度～21年度・環境省地球環境研究総合推進費「トキの野生復帰のための持続可能な自然再生計画の立案とその社会的手続き」

(6)平成21年度～25年度・科学技術振興機構・社会技術研究センター・社会技術研究開発事業「地

域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」研究開発プログラム「ローカル・コモンズ(地域共同管理空間)の包括的再生の技術開発とその理論化」

(1)～(4)の研究では、環境や景観・歴史や文化にかかわる領域における社会的合意形成の問題について理論的な研究を行った。(5)では、生物多様性と地域社会の活性化のための地域の合意形成プロセスを構築する社会実験的な研究を行った(6)では、地域社会が共同管理すべき空間の再生をコモンズ再生と捉え、地域の人びととの協働による実践的研究活動を行った。本研究は、以上のような研究蓄積を踏まえ、研究課題に応えるための基盤とした。

(4) 研究代表者は、理論的な研究の成果を踏まえつつ、多くの社会的合意形成のプロジェクトにおける広報やマスコミ対応、住民との情報共有システムの構築などに関わる経

験を積んだ。具体的に從事した事業は、(1)国土交通省淀川水系河川整備計画策定に係る木津川上流川上ダム建設問題をめぐる木津川上流住民対話集会でのファシリテータ、(2)国土交通省宮崎海岸浸食対策事業でのプロジェクト・アドバイザー、(3)新潟県佐渡市天王川自然再生事業水辺づくり座談会でのファシリテータ、(4)国土交通省・島根県・松江市による斐伊川水系大橋川周辺まちづくり事業・市民意見交換会ファシリテータ、(5)島根県出雲大社表参道神門通り整備事業での総合コーディネータ、(6)長野県による長野県山ノ内町・<農業>×<観光>×<環境>による地域づくりワークショップ指導、(7)沖縄県国頭村森林地域ゾーニング計画策定委員会座長・アドバイザーなどである。

これらの事業において行政と市民との間での情報管理の公正さ・透明性・説明責任の実現が合意形成の成否を左右することを認識したが、こうしたことを通して、情報管理、情報共有における倫理的価値を包括的に体系化することとした。

4. 研究成果

(1) 倫理規範と意思決定、社会規範、規範の理念の三要素からなる<倫理的価値構造のトライアングル>において、それぞれの要素を結ぶ倫理的概念として「正義」を置いた。この「正義」を意思決定と合意形成にかかわる概念とするものとして、理論的・抽象的な概念としての「正義」ではなく、「行為の具体的な場面で実行可能な正義 practicable justice at the site of action」の概念を創出した。この概念に情報における正義の問題を位置付けた。実行可能な正義の実現のためには、行為の遂行者が与えられている選択肢を認識することが必要である。しかし、人々の利害が衝突する事例においては、選択肢が秘匿され、あるいは選択肢に関する情報が意思決定者に届かないという事態が生じる。とくに東日本大震災における情報マネジメントに関する多くの事例は、実行可能な正義の観点から問題を含む。原発事故の被害を受けている住民の多くは、健康被害そのものについての不満・不安だけでなく、政府・行政や研究機関等からの情報提供のあり方に対する疑念を抱いているからである。行

為者が選択肢に関する十分な情報を得たうえで行為を選択できるという状況が損なわれている状況を不正義と捉え、この不正義をいかに正義の状態（選択肢に関する情報が十分に得られている状態）へと導くことができるかということについての考察を行い、実行可能な正義の理念を具体的な意思決定・合意形成の場面でどう具体化するかということ、および、これをサポートする制度設計はどうあるべきかという問題を明らかにする必要があるということを示した。

(2) 情報の正義にかかわる倫理的概念として、「実行可能な正義」となることで、「実現可能な幸福」の概念を得た。実行可能な正義が実現されていない状況においては、人びとは選択の基盤としての情報を十分に得ることができないために、選択そのものに不公平が生じ、またこのような不公平な選択基盤の整備において不公正が生じることを示した。また、こうした不公平、不公正のもとでの選択においては、しばしば対立・紛争が生じるのであり、こうした対立・紛争の渦中にある人びとは、それぞれの人生の幸福を得ることに困難な状況に陥ってしまう。したがって、情報の正義の問題は、人々の実現可能な幸福を阻害するという意味において、幸福の問題にも直結するということを示した。

(3) 「実行可能な正義」と「実現可能な幸福」の概念をもとに、情報の正義の欠落する対立・紛争の解決ための方法として、「社会的合意形成のプロジェクトマネジメント」を構築し、これを理論的・実践的なテキストとしてまとめた。その内容を関係機関および社会にアウトリーチとして普及するための努力を行った。

また、実践面においては、『わがまち再生

プロジェクト』(KADOKAWA)において、研究成果としてのトライアングルをベースに地域づくりの方法論および実践経過をまとめた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計9件)

桑子 敏雄、出雲大社神門通りと温泉津温泉、住宅、査読無、Vol.64、No.7、2015、pp.21-26

桑子 敏雄、恵みと脅威のマネジメント思想、Science Window、査読無、Vol.9、No.2、2015、pp.22-23

谷口 恭子、桑子 敏雄、「ゆるやかなゾーニング」概念の導入による持続可能な森林管理計画策定における合意形成プロセスの構築、森林計画学会誌、査読有、Vol.18、No.1、2014、pp.13-25

桑子 敏雄、災害と環境思想、学術の動向、査読無、Vol.18、No.12、2013、pp.15-21

桑子 敏雄、ふるさと見分け・ふるさと磨きの地域づくり、認知症ケア事例ジャーナル、査読無、Vol.6、No.3、2013、pp.289-297

Toshio Kuwako、Fukushima and the Philosophy of containment、Risky Engagements:encounters between science and art、査読無、2014、pp.14-15

桑子 敏雄、公共空間のコミュニティデザイン 市民普請のすすめ、土木学会誌、査読無、Vol.99、No.1、2014、pp.30-33

高田 知紀、豊田 光世、佐合 純造、関 基、秋山 和也、桑子 敏雄、社会基盤整備における合意形成プロセスの構造的把握に関する研究、土俗学会誌、査読有、Vol.68、No.1、2012、pp.27-39

桑子 敏雄、境界の思想、Biostory、査読無、Vol.17、2012、pp.7-14

[学会発表](計7件)

桑子 敏雄、地域のなかの医療・看護と社会的合意形成、日本老年看護学会第20回学術集会、2015.6.13、パシフィコ横浜

Toshio Kuwako、Theory and Practice in Environmental Ethics: Facing the Benefits and Risks Arising from Complex Interactions between Human

Activities and the Dynamics of the Globe、上廣・カーネギー・オックスフォード倫理会議 2015 Uehiro-Carnegie-Oxford Conference on "Global Warming-Environmental Ethics and Its Practice、2015.10.29、The Yale Club New York City

桑子 敏雄、ふるさと再発見

Discovering Home Place、持続可能な社会の形成に向けた「場の教育」シンポジウム、2016.1.23、早稲田大学大隈講堂小講堂

Toshio Kuwako、Landscape Education Through Co-learning、Landscape & Imagination、2013.5.2、Ecole Nationale Supérieure d'Architecture de Paris-La Villette

Tomomi MAEKAWA、Michael SEIGEL、Toshio Kuwako、Research on the current issues in water resource management in the Murray-Darling Basin、and the possibilities of Australian Landcare as the key to a solution、The 14th Global Biennial Conference of the International Association for the Study of the Commons 国際コモンズ学会第14回世界大会(北富士大会) 2013.6.7、富士吉田市民会館

張成、門畑祥子、前川智美、桑子 敏雄、市民主体の地域再生活動 佐渡市福浦「ふるさと見分け」と防災道整備市民工事、第15回日本感性工学会大会、2013.9.6、東京女子大学

加藤まさみ、高田知紀、梅津喜美夫、桑子 敏雄、東京の「多自然川づくり」市民プロジェクトと「ふるさと見分け」に関する研究、第15回日本感性工学会大会、2013.9.6、東京女子大学

桑子 敏雄、神々の感性 日本の国づくりと出雲神話、第15回日本感性工学会大会、2013.9.6、東京女子大学

[図書](計9件)

桑子 敏雄、コロナ社、社会的合意形成のプロジェクトマネジメント、2016、183

桑子 敏雄、角川書店、わがまち再生プロジェクト、2016、255

桑子 敏雄、他、ミネルヴァ書房、日本農業への問いかけ 「農業空間」の可能性、2014、324

桑子 敏雄、他、(株)日本地域社会研究所、現代文明の危機と克服、2014、235

桑子 敏雄、他、岩波書店、日本のコモンズ思想、2014、270

桑子 敏雄、岩波書店、生命と風景の哲学、2013、270

桑子 敏雄、他、工作舎、形而上学の可能性を求めて、2012、461

桑子 敏雄、他、東信堂、感性のフィールド ユーザーサイエンスを超えて、2012、200

桑子 敏雄、他、学芸出版社、風景の思想、2012、219

〔産業財産権〕
出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
<http://www.valdes.titech.ac.jp/~kuwako/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

桑子 敏雄 (KUWAKO Toshio)
東京工業大学・大学院社会理工学研究
科・教授
研究者番号： 30134422

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者